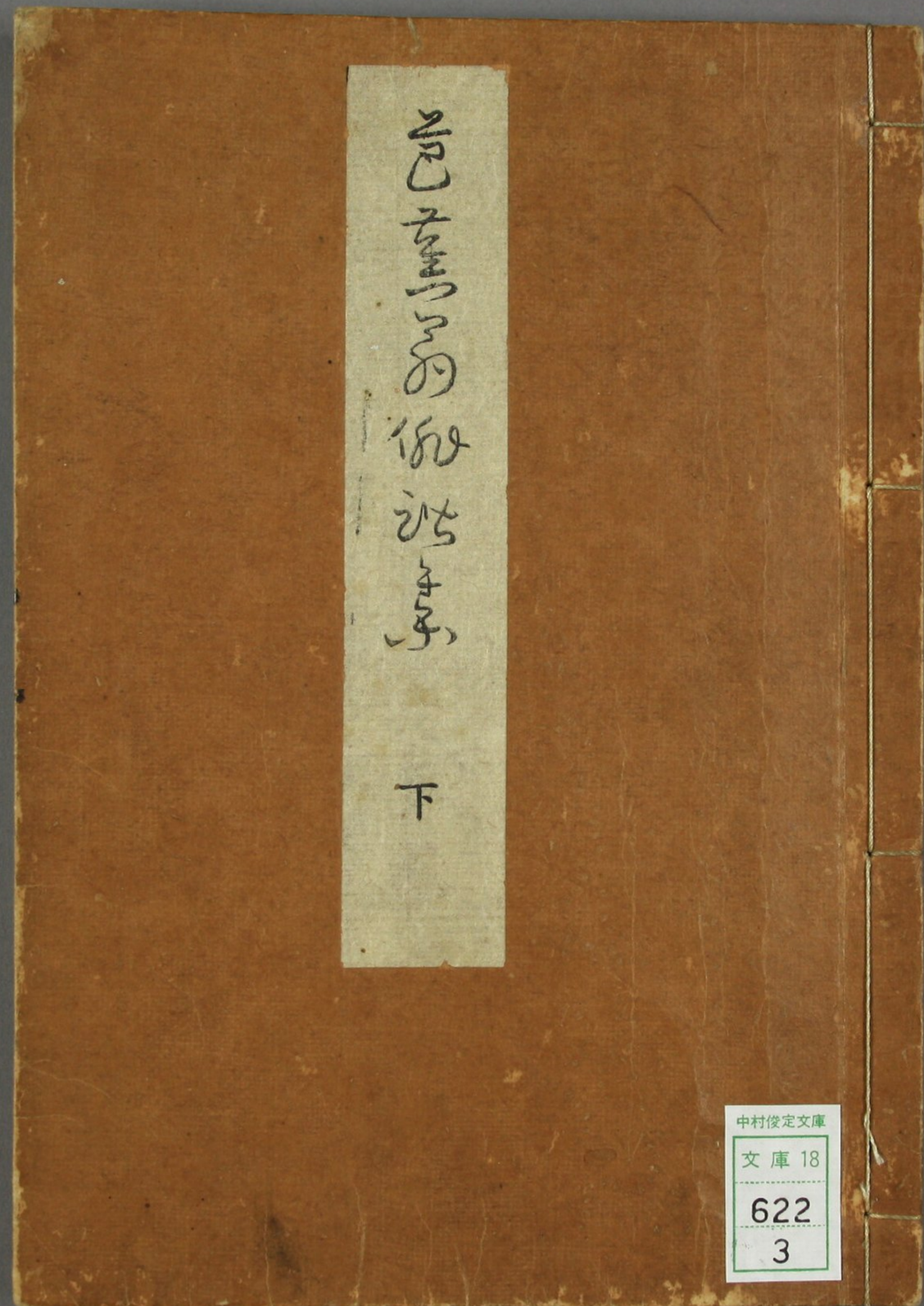


中村俊定文庫
文庫 18
622
3

芭蕉翁俳諧集　下

元禄五申年

こんにやくのさしみも[illegible]の花　翁

[illegible]の花　嵐雪

帰る鴨の[illegible]鴨も[illegible]、

七種[illegible]　翁

[illegible]の[illegible]、

俳諧下　一

雪
義
雪
義
雪
義
雪
義
雪
義

雪
義
雪
義
義
雪
義
雪
義

[illegible] 雪
長[illegible]の[illegible]の[illegible]て 翁
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん 雪
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]元梅[illegible] 翁
[illegible]の[illegible]の[illegible] 雪
[illegible]の[illegible]の[illegible]八[illegible]屋 翁
[illegible]の[illegible]の[illegible] 雪
[illegible]の[illegible]の[illegible]金[illegible] 翁
[illegible]の[illegible]の[illegible] 雪

[illegible]の[illegible]ん[illegible] 翁
[illegible]の[illegible]の[illegible] 雪
[illegible]人[illegible]の酒[illegible]通 孫碩
[illegible]の[illegible]井[illegible] 翁
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]ん 翁
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 支考
[illegible]人[illegible]の[illegible]て 、
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 翁

もゝ鳥日庭にしてさ語る　翁
風あふらめて無のまゝふ林の　考
ウ 奇のとゝまらぬ時をよしとよ　、
春乃夜の月のあゆすなる哉さかえぬ　翁
くらく／＼よめさうや樋と中のあや　、
兎のまゝもまゝ　誹朗　名就　、
二三年一字のまゝ芝かまゝく　考
髪とをやしてかん中東頼　、
座敷をかすまり打つ月夜の月　翁

樸識きとまとめ用力に乃牡丹　、
何所の国へもりや所の行運に　考
秀句の里情まさまにつかり　、
恠終に寺陸の外をとよ　翁
白河郷溺川　紅葉たる入　、
名
陽炎も牡傘を例に飛ぶなり　考
手紙とりて人の名を問　、
木綿の袖もきたる枝のくやしき　翁
冷とも瓶し誹も積むく　、

松風のまんまくらに夜寒哉　考
捨てもつかぬ古郷の霧　翁
濁り水に月の影なし稲妻　考
る一雨ごとに秋の人　翁
山陰に月はけうとし人　翁
寒の入り世間の人　考
出でて涼し　翁
秋の穂の一筋ごとに月入る　考
二乃丸はさんの金屏風　翁

角さしてかんの鹿の鳴く　翁
さゝ蟹の家陰の蘆を倉とし　考
ひとつかの蛍の光　翁
戎神の家の敷居を踏ぬ　考
寄る波に伸びる蘆　翁

元禄六丙寅年

[illegible]　路通
[illegible]　李雪
[illegible]　芭蕉
[illegible]　亀仙
[illegible]　泉川
[illegible]　孤筆
[illegible]　岩
[illegible]　蕉
[illegible]　仙

[illegible]　亀
[illegible]　蕉
[illegible]　岩
[illegible]　川
[illegible]　仙
[illegible]　海
[illegible]　蕉
[illegible]　川
[illegible]　海

名

[illegible]

蕉

仙

岩

川

通

蕉

仙

通

蕉

[illegible]

唐人[illegible]

[illegible]

ウ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

岩

川

蕉

通

川

仙

通

蕉

岩

[illegible]　雪言
[illegible]　松前
[illegible]　通
[illegible]　芭蕉
[illegible]　川
[illegible]　通
[illegible]　蕉
[illegible]　言
[illegible]　川

[illegible]　言
[illegible]　通
[illegible]　川
[illegible]　言
[illegible]　蕉
[illegible]　通
[illegible]　蕉
[illegible]　通
[illegible]　言

講堂に僧たちの居
給ひしに西の水ぎわに
門ふかく生垣結ひ
つゝ清涼の内
に寒菊咲乱
れ蓮の葉
枯れて小田
の中に小雨
降る秋暮の庭
の面
一人
世

川
言
蕉
面
川
言
蕉
面
川
言
蕉
川

おもかげ
の中に
雁
枯れ
の
言
面
花
言
蕉
面
川
言
蕉
川

[illegible]れ　野坡

[illegible]　芭蕉

[illegible]　坡

[illegible]　蕉

[illegible]　坡

[illegible]　蕉

[illegible]　坡

[illegible]　蕉

[illegible]　坡

[illegible]　蕉

[illegible]　坡

[illegible]　蕉

ナ

蕉　坡

蕉　坡

蕉　坡

蕉　坡

ウ

蕉　坡

蕉　坡

蕉　坡

水音や小鮎のいさむ二俣瀬　湖風
柳はすさに岸の刈株　翁
見しりて切らるゝ虫の扇あり　洒堂
刀持たりしくふ物數　利牛
今借の縁と月數の月　風
居處替て松嶋の友達　翁
ウ
小構に小ゝ家木構の簾ひ　桃隣
錢一文かりて下結ひとならぬ縁　牛
葉莢鶏の宿みえぬ鳴く　洒堂

春の寸秘に鍛冶の輕　嵐蘭
見ぐ月と仰の窓そらし瘡膿の跡　翁
表に簾ところ難につけ　風
小さき寺堆とありくふの寄　牛
冬ごもりかんじて誰の冷きゝ　隣
月影の同じ佛の荒行き　翁
道人の奉る蔦清朝と色　洒堂
皆抑中清かのまゝ夜の雲　言
爲ゝ野あかに小燕しの細　風

使邦
佐國
義
板の間
魯可
國
邦
義
可
邦

國
義
可
國
邦
の
義
國
可

ナ

邦園可邦為の園為の

園邦可園邦園別園

芳しくやさしき蝸の田舟秋の水　翁
巻たる竿し卵こもる雛　酒子
織かけし絹を延てたぬる　凉葉
打く涼む裏の柳の本　翁
落月夜鷄なく北隣から　子
汐くせ手さぐる西側方　葉
ウ
蕎麦の小村を延ども文　翁
桜の木北の末りみな雨程　子
何かりも見ちりき鴉の雛を羽　葉

堀えういりちるめ桜　翁
月ののき絵所様せず　子
秋風様まで見えず花の葉恋　葉
指の木見詞あるる夕程　翁
余所知らぬくの枝柿　子
寿めはるし鐘の音を　葉
松ら落人会のそれ　翁
蔦め桜今の花もり旅　子
縁談きめく人の露　葉

名 世間ハ春やしらぬ馬や紫風　翁

日記つけまし一帖の紙　葉

指膾やもちたる身に船傾り　子

花散るもとかせ舟の蔵の座鵜　翁

青浪ハ夕立ぬ　仰無も情く　葉

元来下ちる　酒甕　子

振ちて夜半難をえらる月　翁

世ま葉虫ち朝のも　風邪と　葉

まち年を　仮縁の大事なる　子

まふもと底の方ゑる　翁

よん篠とに横杖と荼て　葉

美な茶堂をせまたら床の座瑞　子

ウ あとさすさへやと数尾と鴎け　翁

湖水をしむ　瀬田の雁雪　葉

藤かみいよ夜霧の経る　子

儀式んに慶ととなるに笑ふ　翁

柳か風に依のぞる俵町　葉

生のを杖る　天神の宮　子

元禄七戌年

牛房丸村ゟ出ル月角　瀧井
ゟ柴田ゟ梅樽の元　吉来
一樽の延て壱樽ハ金　色意
樽ゟ小屋ゟ出ル　惟弦
月新ゟ者の海風ゟ　文章
堤おゝ井田の中堤　支考
ウ　家ゟ堤ゟ出て　来

行
弦
耶雅
考
意
来
弦
井
来

十五夜より
秋ゟ出ル　裕
所ゟ鴨の出ル　耶雅
樽ゟ松原ゟ明て　考
河ふ人ゟ出ル奥ゟ　意
角ゟ出ル　来
紙ゟ出て　弦
樽ゟ次樽の蓋　井
ゟ出ル者ゟ世話ゟ　来

[illegible]　弦
[illegible]　雅

秋[illegible]
[illegible]　芭蕉
[illegible]　太祇
月[illegible]
[illegible]　惟然
[illegible]
[illegible]　考
[illegible]
[illegible]　言
[illegible]
[illegible]　蕉

ウ
[illegible]
何[illegible]　弦
宿[illegible]　蕉
[illegible]
佛[illegible]　言
[illegible]　弦
八[illegible]　考
[illegible]　言
[illegible]　蕉
[illegible]　考

然
言
考
蕉
言
弦
考
言

考
蕉
言
弦
蕉
考
弦
言

考
蓋
筋
猪雛
色蓋
配刀
白袋
七寸

皮袋
蓋
袋
刀
袋
雛

山ゝ村の一かまくら
前ゝ新田藤の巣
燒ゝて栗ゝ巣の
ちかゝ沢ゝの風穴
巣別の川瀬の石ゝ
目当ゝ風ゝ
大石の仏ゝ巣ゝ
向ゝ沢ゝ巣ゝ
一体ゝ代ゝ持ゝ酒の箱

蕨
袋
芋
蕨
巣
鶏
刀
雛
蕨

鹽の原ゝ巣ゝ
燒ゝ芋ゝ
鶏の巣ゝ
巣ゝ本ゝ前ゝ
うゝ燒ゝ
神ゝ八ゝ代ゝ
ゝ原ゝ
ウ
夜ゝ
光ゝ

巣
芋
刀
蕨
雛
巣
袋
蕨
芋

[illegible] 雑
[illegible] 袋
[illegible] 刀
[illegible] 麺

[illegible] 稗の[illegible] 京寒
[illegible] 粳米
[illegible] 方
[illegible] 豆

[illegible] 粳糯
[illegible] 豆
[illegible] 卓袋
[illegible] 九節
[illegible] 芝
[illegible] 翠
[illegible] 紙
[illegible] 陸
[illegible] 蓋

袋
洋
蕉
芳
雛
芝
袋
蕉
翠

芳
袁
弦
洋
芝
蕉
袋
袁
芳

芝雀

秋

木葉

松

翠

秋日和を惜てうつまるる　文代

雪の月河原の石と中秋の　寿

雪之

横雀

京霧

惟然

卓袋

代

考

芝

注

翠
嘉
袋
萩子
然
代
袋
考
雖

子
考
嘉
雖
芝
代
袋
然
子

ウ しぬ秋を待つのみとなる都人
傷みを伝へる外山の紅葉
河原風吹くなる鹿の下草
芦切入る高屋 黄葉する頃
もみぢ葉を散し山ぶかき
雁
夢の通ひ路 代

紅葉を掃く夜嵐の音
袖香をうつす人をとるさひ新 苔蓋

夕月の光る梢に小雨降り
しぐれ降る山の紅葉 雁鶏
外とまで通ふ道 鹿

ウ 鶴蓋を周利の宮の
つゆ時雨 高野の紅葉
大井川 桂の桂 紅葉
野原 長谷 懐旧
山ぶかき 牧 家

一つもうゑし常ときわ　たゝひ　序
杉の布屋の新緑月さえて　定
百の夜々に紅葉する　蕉
秋の月の面影　角
ちらす春の花　○
美人の山に雪ふる　蕉
ナ　春の山の花　義
春の雨　切　月　移　仏
雨雲の雪　定

のうれの中にまつふる雪の
紫雲の雲のうへ　夜
青木が村の青もみぢ　角
もみぢの山の錦　虎
山をまつる鶴の
蓬の門の掃き
しをれる月の人家
雲の中の
松の切　移　用

[illegible] 種

松風新酒[illegible] 方秀

月[illegible] 猿雖

町の[illegible] 翁

[illegible] 芝

二[illegible] 惟然

[illegible] 卓袋

簾[illegible] 市寒

[illegible] 考

[illegible] 雖

[illegible] 芝

[illegible] 翁

[illegible] 案

[illegible] 袋

大[illegible] 翁

用の[illegible] 考

[illegible] 芝

紫考　翠考　雑考　雑考　雑考　雑考

一里ばかりし勝のまさるる
山ちかく孔雀樹の花さかり
月たかくてうるはしの桐の葉
毎日たてて月桂樹
嵐のこもるふかき巖の中
僧侶の姿ふかき梅の
青もみぢ　ほのかに紅葉
小金ヶ原の夏草
せんりの風ふく人ぞあるる

秋の夜ともちの月の光
月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
西の山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ
言ふ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
男共ゝ共ゝ共ゝ共ゝ
小袖ゝ袖ゝ袖ゝ袖ゝ
付ウ付ゝ付ゝ付ゝ付ゝ
かへゝへゝへゝへゝへゝ
拭ゝ拭ゝ拭ゝ拭ゝ拭ゝ

色蓋
車屋
酒屋
樽刀
鞘巻
性悪
文者
蓋
屋

等て拭ゝる海苔屋 樽
紙ゝ紙ゝ紙ゝ紙ゝ紙ゝ
湯ゝ湯ゝ湯ゝ湯ゝ湯ゝ
鹿の子ゝ子ゝ子ゝ子ゝ
面氣の目ゝ目ゝ目ゝ目ゝ
大ゝ大ゝ大ゝ大ゝ大ゝ
七ゝ七ゝ七ゝ七ゝ七ゝ
えんどう豆ゝ豆ゝ豆ゝ豆ゝ
少ゝ少ゝ少ゝ少ゝ少ゝ

屋
刀
者
越
屋
蓋
刀
屋
紙

白菊の眼に立て見る塵もなし　芭蕉
紅葉に水を流す朝月　園女
冷じく鯛の片身を折付て　諷竹
何にやらんといひて泣出す児　渭川
小樽して中ものの箸をそろへけり　支考
報恩講の衆　惟然
ウ
淀まれる稲負鳥をめでてとらす　酒堂
神鳴のさまさまにある寂しき居代　舎羅
堪られぬ響の耳にかかる　何中

薄縁のうちに見えて大きな横へ　蕉
掃除のあとはかなき娘のまへうしろ　女
酒のみのよみもて稲のまへ初　竹
冬枯れて月のおぼろなる枝の霰　川
座請ひたる何某の秋　考
花さくや漬けおくちやの露る籠　然
彼岸のあひのあさてあかる　堂
まだ見えぬ小まくらの肴そなへの心　羅
出代のあかなおそしと取ける　中

かくれ笠と橋と橋と物思ふ人を
しるべの雲の雲の雲の橋
清水のかくれ家の雲の雲
雲のうしろ月小めたる風
世界の雲月清の雲雲
清雲の雲の雲の雲もし
よしの橋月の雲の川の雲
橋の月月雲の雲の雲
小かきの雲の雲の雲

仙川　素堂　如水　考然　中川　蕉笠　如

清水の雲の雲の雲の雲
月雲の雲の雲の雲の雲
枝一本の雲の雲の雲
野橋の雲の雲の雲の雲
雲の雲の雲の雲の雲
鮮の雲の雲の雲の雲
雲の雲の雲の雲の雲
月の水月清の雲の雲
物の雲の雲の雲の雲

素堂　仙川　蕉笠　中川　考然　如水　素堂　然

所思

此道や行人なしに秋の暮　芭蕉

岨の畠の木にかゝる蔦　泥足

月しらむ蕎麦の風のほそき也椽　支考

小きなるともゝ氷くむ　游刀

寒気ね羽織をきて着なし人　之道

酒て瘤めん小まる膝癖　車庸

ウ 行つゞく月に座敷にすぐる　洒堂

塩魚の處に小河の中の梅ちらし　畦止

縁きれ其家の仏なる　惟然

親子の離ればなれ　亀柳

無も宿も絵に鮨　足

かく曲る草に松風　蕉

さし小山家の稲は穂にまた　庸

地蔵の煙に秋の枝　考

仕事も明日の朝の月　道

塩鰹の小ぶりに　然

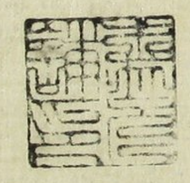
ちる花の茶の門に　止

去の芭蕉翁俳諧集をつゝ五升庵
大徳ちとゝ沙ひめ和ふを回し
友よこゝ社園の松浦井の住人ゆ
ちゝ伝記をふ〻つゝるなり和も
いアの世ゝこの迫るあゝふ人のこゝ社
翁の光風をちゝ小さ和ゝあ〻沒
され小丁地續技業地迫傳云
蕉翁乃讃ゝこの風雅八傳統の肝

騰ずる衆生の心性と濁海の室代
如是庵の門弟なりと示し
ゆゑは何ぞ如是とはいふべきや
ふるさとの人に見んと思ひ
なりしかく国を忘の人まことに
乃ち〳〵捧ぐもつゝしむるなり
迦江國甲賀山の杉風菴にて
曾秋謹書

蝶夢子著述書目

芭蕉翁繪詞傳	二巻	太来丈草句集 二冊
同	發句集 二冊	類題發句集 乙冊
同	俳諧集 三冊	俗諧名山小鏡 三冊
同	文集 二冊	鉢敲集 一冊
芭蕉堂名録集	三冊	吉野行冬住記 同
蕉門俳諧語録	二冊	遠江乃記 同



天明六年丙午七月

蕉門俳諧書林

井筒屋庄兵衛

橘屋治兵衛